

平成 20 年度
国道 195 号道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査

土島田遺跡

現地説明会資料



日 時 記者発表 平成20年9月19日(金) 午前11時～
現地説明会 平成20年9月21日(日) 午後1時30分～3時30分
場 所 南国市小籠の発掘調査現場

高知県教育委員会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

平成20年度 国道195号道路改築埋蔵文化財発掘調査にかかる 土島田遺跡発掘調査概要

1. はじめに

土島田遺跡の発掘調査は、国道195号道路改築工事（あけぼの道路建設）に伴い、工事によって影響を受ける部分について事前の発掘調査を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的としています。発掘調査は、平成19年度に調査対象地の西側部分に該当する調査区（Ⅰ区～Ⅳ区）の調査を実施し、本年度は順次東側の調査区（Ⅴ区～Ⅹ区）について調査を進めています。

2. 土島田遺跡の概要

土島田（ししまだ）遺跡は、「長岡台地」上に立地する弥生時代から近世にかけての遺物散布地で、南国市小籠・東崎に所在しています。周辺の遺跡には、弥生時代後期～末の拠点集落跡である小籠（こごめ）遺跡や野中古墳群などの後期古墳が形成され、また近隣には土佐国分寺跡や野中廃寺跡などの主要な古代寺院跡が所在しています。昨年度の発掘調査では、古代の掘立柱建物跡群や溝跡、近世の屋敷跡などが検出され、貴重な成果が得られています。

3. 調査対象地

南国市小籠・東崎

4. 調査体制

調査委託者 高知県

調査実施機関 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

5. 調査期間

平成20年5月8日～平成21年3月20日（予定）

6. 調査面積

調査対象面積 約23,000㎡

調査面積 約16,500㎡（平成20年度）

7. 調査結果

(1)検出遺構（Ⅴ・Ⅵ区）

古 代：道路遺構1、掘立柱建物跡2棟、溝跡4条、竪穴住居跡3基、
畝状遺構4条、土坑 3 基

中 世：土坑1基

近 世：土坑、柱穴、ピットなど

その他：自然流路、倒木痕跡

(2)出土遺物

縄文土器、須恵器、土師器、近世陶磁器

8. 調査成果

調査対象地の西側部分に該当する調査区（V区）から、奈良時代から平安時代に位置づけられる古代の道路遺構が検出されました。この道路遺構は、2条の平行な溝跡に挟まれた南北方向へ直線状に延びる遺構で、両脇の東西の溝跡は道路の側溝であると考えられます。なお、道路遺構は7世紀中頃に位置づけられる竪穴住居跡を壊して形成されていた。道路遺構の東側では、カマドを併設した7世紀の方形の竪穴住居跡2棟が検出されており、道路遺構設営以前の7世紀代には古代の集落跡が所在していたことも併せて明らかになりました。

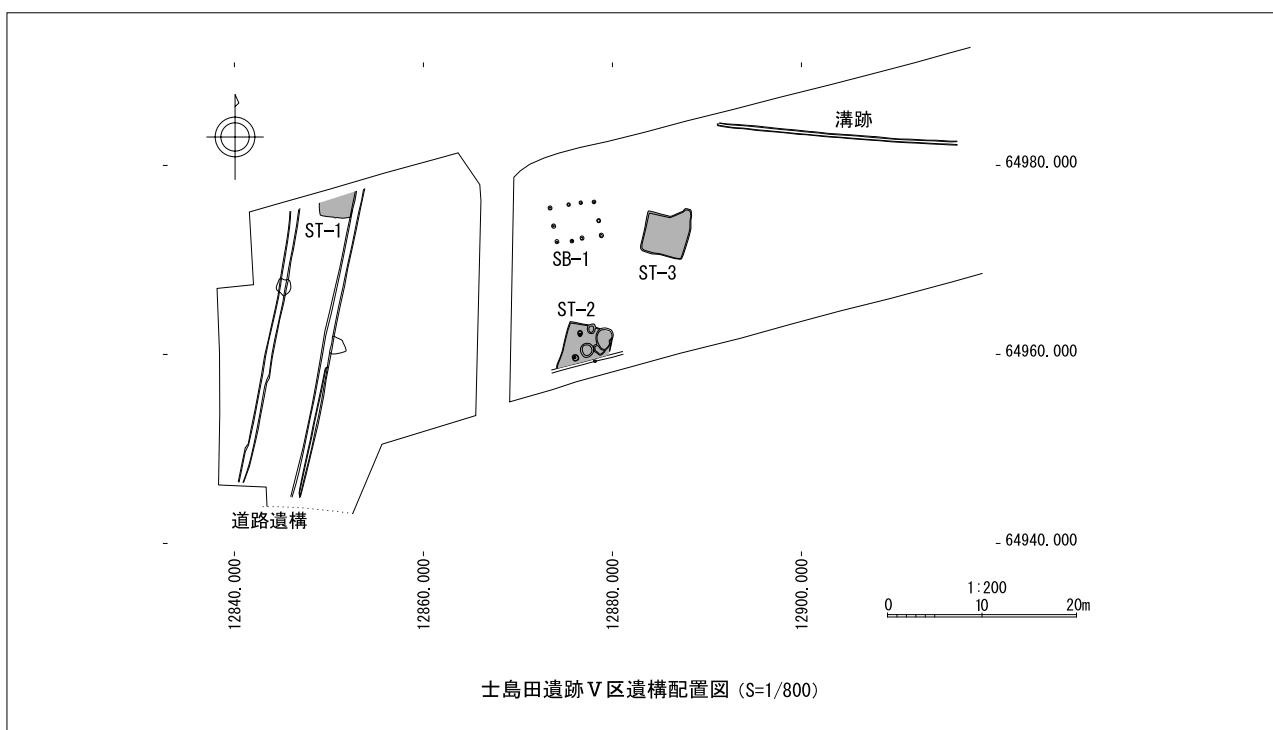
V区の東側からVI区にかけては、古代の溝跡や掘立柱建物跡などが検出されています。溝跡の方向や配置などから、古代において計画的な土地区画が施行されていたことが窺われます。

なお、VI区では古代の溝跡に加えて縄文時代中期の土器を含む自然流路などが検出されており、当該期の集落が周辺に所在していた可能性が高まりました。

9. まとめ

今回の調査では、古代の道路遺構が検出され、昨年度に検出された古代の掘立柱建物跡群と共に、調査地は古代の交通史上、大変重要な地域であったことが明確になりました。検出された道路遺構は、広い幅員を有し（溝跡の中心間の距離6m）、諸国の主要官道と比較しても遜色のない規模であることや、廿枝条理など香長平野における条理遺構の南北法線に則した内容であることなどから、南海道の南北道である可能性が極めて高いと考えられます。

土島田遺跡の発掘調査の進展により、新たな調査成果が得られており、今後益々埋もれた地域の歴史が解明されることが期待されます。調査の進行にあたり格段のご協力をいただきました地元の方々、高知県中央東土木事務所、高知県教育委員会、南国市並びに南国市教育委員会、関係者の皆様方に心からお礼申し上げます。





道路遺構全景（東から）



調査区遠景（西から）



調査区遠景（北から）



竪穴住居跡（ST・2）



調査区遠景（南から）



竪穴住居跡（ST・3）